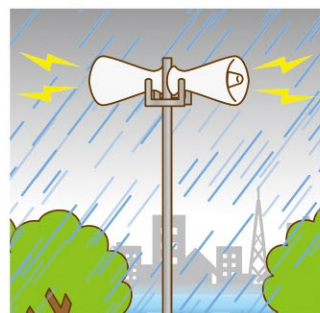


台風・大雨のポイント

台風・大雨は危険な状態になる前に、避難を完了

災害から命を守る最も確実な方法は「災害にあわないようにする」すなわち「早めの避難」です。災害発生のおそれが高まった場合、町では避難指示などの情報を発令し、防災行政無線やあんしんメールなどでお知らせします。しかし、避難指示などの情報は、すべての世帯にとって必ずしも最適な避難のタイミングであるとは限りません。各世帯における家族構成、自宅建物の高さや丈夫さ、周辺の状況、そのときの降雨や浸水状況などから判断して、危険を感じた場合は、避難指示などの情報が出されるよりも前に自主的な避難行動をとることが重要です。



防災行政無線



あんしんメール



戸別受信機

Point① 夜間の避難が予想される場合などは、早め早めの行動を取りましょう！

Point② 自宅などが安全な場所（土砂災害警戒区域や浸水想定区域に入っていない場所）にある場合は、避難所に行く必要はありません

避難に対する基本的な考え方

● 避難は自ら判断を

災害が迫ったとき、置かれたその状況は一人ひとり違います。周りの人が避難していないから、自分も避難しなくても大丈夫だと思ってしまうのは危険です。それぞれが自ら判断し、適切な行動を取らなければなりません。

避難所の駐車場には限りがあるため、町避難所への車による避難は、障がい者や高齢者など「避難行動要支援者」を優先しましょう。



避難行動要支援者は車で



健常者は徒歩で避難を

● 避難のしかた（要領）

- ・特別な場合を除き、健常者は徒歩での避難を心がけてください。
- ・避難に時間がかかる避難行動要支援者（高齢者・妊産婦・障がい者）は、支援いただける方と一緒に車などで早めに避難してください。（22ページ参照）

例えば

- 大雨等の時は、ハザードマップを確認して、次に該当する場合は早めに避難しましょう。
- ・土砂災害警戒区域内に住んでいる
 - ・浸水想定区域内に住んでいる



とにかく早い段階での
避難開始を心がけてください

● 自主避難のすすめ

避難情報が夜間に発令される場合もあります。雨が強くなる前に浸水が予想されていない地域の知人宅や親せき宅などに自主的に避難する「自主避難」が有効です。



知人宅や親せき宅に避難